

= 課 題 =

○ 肝硬変患者の看護について

事例を読み、次の質問について、それぞれ記述しなさい。

事例 Dさん 62歳 男性

妻(57歳, 会社員)と2人暮らし。2年前に食品メーカーの営業部長を定年退職した後、悠々自適の生活を送っている。55歳のときに肝硬変の診断を受け、1年間ほどは定期的に近医の外来を受診していたが、自覚症状もなかったため自己判断で通院をやめていた。その後も年に1度は健康診断を受け、肝機能の結果に“要診察”とあったが、体調はそこまで悪くなかったため受診していなかった。ところが、1か月前から倦怠感がひどく、家で横になっていることが多くなった。1週間前からは急にイライラしたり、意味不明のことを言うようになり、ある日朝食時にDさんの意識がもうろうとしていることに気づいた妻が救急車を呼び、緊急入院となった。

入院後、治療が行われ、意識レベルや精神症状は改善されている。

1. Dさんの入院時の症状である肝性脳症について、肝臓の構造の変化を踏まえてそのメカニズム(機序)を説明しなさい。
2. Dさんの退院後も踏まえて、日常生活に必要な指導内容を2つ挙げ、それぞれ必要な理由を答えなさい。
3. 看護学生AがDさんを受け持ち、「慢性疾患をもつ患者の看護」を学ぶ実習を行っている。学生Aは、Dさんから今回の入院で自分の異常行動を知り非常にショックを受けたことや、もっと早く受診すればよかったという話をされるたびに、「そうですね。」と答えていたが、訴えは続き、何と答えたらいいか分かりませんと相談に来た。
あなたが実習指導者だったら、教育的な関わりとして、学生Aにどのような声をかけるか、具体的な発言とその意図を述べなさい。